通巻第16号

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter

平成24年度 第1号
2012年7月17日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座リハビリテーション医学教室 田中 一成

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町93番地 KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL：075-315-8472 FAX：075-315-8472 E-mail:office@kinkireh.com

JARM Kinki

巻頭言

同時改定から見えてくる今後のリハ医療の方向性

社会医療法人大道会 副理事長
森之宮病院 院長代理 宮井 一郎

リハ医療は、いうまでもなく医療保険により成立しており、制度を抜きにして論じるわけに行かない。超高齢社会で介入の意義付けや財源の裏付けを伴いながら、われわれが主体的に客観的に、検証・提案をおこなっていくことが、この分野の発展には必須である。そのような意味合いで、この十年で最も充実したリハ関連の医療制度は回復期リハ（回リハ）病棟であろう。

全国回リハ病棟連絡協議会では2001年より転帰に関するデータを蓄積し、超高齢社会における介護負担のソリューションの一部としての回リハ病棟制度を、約90,000例のアウトカムと診療報酬改定の変遷と関連という視点から報告した(Miyai I, Sonoda S, Nagai S, Takayama Y, Inoue Y, Kakehi A, Kurihara M, Ishikawa M. Results of new policies for inpatient rehabilitation coverage in japan. Neurorehabil Neural Repair. 2011;25:540-547)。制度的にリハ医療のベースラインを担保できるかという仮説から、9単位化や「質の評価」などの改定により、アウトカムが影響を受けることが示唆された。今年度の看護必要度A導入の影響も検証予定である。データは全国の回リハ病棟の8，9月の全退院患者の約6割をカバーしている。といっても、選択バイアスが避けられるわけではなく、回リハ病棟も玉石混合である実態を踏まえると、全例データの収集が必要であろう。例えば米国リハ病院で患者毎に提出が、義務づけられているInpatient Rehabilitation Facility - Patient Assessment Instrumentのようなツールを参考にしつつ、pay for reportingを導入するという考えである。

アウトカムの蓄積のために、リハ学会でもデータマネジメント特別委員会の産物として、データベース基盤が整備してきたが、データ提供病院はごく一部であり、ある施設のデータに引っ張られるバイアスの大きいものとなっている。外科系学会は公益法人化とともにNCDを立ち上げるという先行した取り組みを行っている。一方、リハの質の評価で、最も難しいのはプロセス評価である。脳梗塞の再発予防であると、抗血栓療法のガイドライン遵守率といったわかりやすい指標が成り立つが、リハ分野ではそうはいかない。一つの取り組みとして、日本医療機能評価機構では、来年度から病院種別の評価体系に再編され、リハ病院というカテゴリーができる。その上に乗る形でのプロセス評価重視の（高位）回リハ病棟付加機能評価（Ver.3）も完成間近である。

リハは回リハ病棟で完結するわけでなく、患者の生活は退院後も数十年以上続く。リハ医療は患者自身のすべての問題を解決して「完成品」を出せるわけではない。患者の障害、介護者の無理のないスキル、生活・社会環境設定、社会資源活用の合わせ技でソフトランディングし、それを維持するための仕掛けが求められている。同時改定では、生活期リハを医療保険から介護保険に移行していく方針が明記された。問題は生活機能の維持・向上のために、どのような介入を、どのくらいの量、どのくらいの頻度で、どのくらいの期間行えばよいかというデータがないに等しいことである。12年で62,000床にまで整備された回リハ病棟へ注ぎ込まれた財源が、生きるかどうかも、生活期の対応にかかっており、今後の焦点であろう。

施設紹介（第12回）

和歌山県立医科大学 みらい医療推進センター げんき開発研究所

〒641-8509 和歌山市本町二丁１番地 フォルテワジマ５階
TEL 073-488-1933 FAX 073-488-1935
http://www.wakayama-med.ac.jp/miraic/genki.html

和歌山県立医科大学リハビリテーション（リハ）医学講座は、主として医療の一環としてリハを行っています。リハは総合医療ですので、診療科の枠にとらわれず、それぞれの患者さんの「疾病」に対してではなく、「人」に対して最適な医療とリハを提供します。つまり、総合人間医療が基本です。

そのため、大学病院では発症時から始める徹底したリハや、予定手術では術前からのリハを行っています。急性期リハが最も重要ですが、地域に根ざした総合医療の一環としてリハを行う大切さを若手医師に教育する必要性も感じました。

そこで、平成20年4月から那智勝浦町立温泉病院にスポーツ・温泉医学研究所を設立し、高速ネット回線で大学院講義も受けられ、かつ、研究もできる環境を整えリハ研修施設に認定して頂きました。急性期リハはもちろん、家庭復帰までの総合的なリハ、そして同時に地域住民、在宅障害者のかかりつけ医として「人」を治療するリハ科医を育成しています。

CONTENTS

◆同時改定から見えてくる今後のリハ医療の方向性 1頁
◆施設紹介（第12回） 1-2頁
◆新専門医に聞く 2-4頁
◆特集「第５回アジア義肢装具学術大会開催に向けて」 ... 4頁
◆第33回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会 会長挨拶 5頁
◆第33回近畿地方会開催概要 5頁
◆2012年度近畿地方会研修会カレンダー 6頁
◆編集後記 6頁

しかし、この地域医療を突き詰めて参りますと、予防医学も避けて通れません。障害の進行予防も含め、健常者の健康増進となると保健医療の取り組みだけでは不十分です。運動療法を通じて運動・スポーツの有用性を理解したリハ科医としては、運動・スポーツによる健康増進活動への衝動に動かされました。

「みらい医療推進センター」は、平成21年7月に設立され、県民の健康増進など県民医療への貢献や大学の機能分担と拡充、学生・医療人の研修の場、医療情報の発信の他に中心市街地の活性化にも大きく貢献することを目的としています。このセンターは診療所機能と研究所機能の2本柱からなり、医療としてのリハが必要な患者さんは診療所での保健医療を、健康増進目的の運動・スポーツは「げんき開発研究所」での有料運動・スポーツ指導となります。

なかでも、「げんき開発研究所」は、みらい医療推進センターの中核施設として、「人工気候室」を完備しており、暑熱、寒冷環境に向けてのトレーニング、生理学的評価が可能です。「動作解析装置」では歩行をはじめ、ランニング、ピッチングフォーム等のスポーツ動作解析も可能です。その他に、様々な最新のトレーニング機器を多数完備し、リハ科医やスポーツドクターを中心に、専門のトレーナーも担当します。そして、医療的アドバイスを必要としたり、メディカルチェックを希望するトップアスリートもここに集います。

現在、パラリンピック選手の医科学測定基幹施設、JOCの競技別ナショナルトレーニングセンター「セーリング」のサポートをはじめ、和歌山県国体選手の医科学サポート施設として県下のエリート選手の医科学サポートを実施しています。トップアスリートから趣味でスポーツを楽しむ方、また、健康増進のために適度な運動を計画されている方に、医学的なデータに基づくトレーニングメニューの研究・開発・提供など行ってまいります。

詳しくは、この4月から開設したHP（http://wakayama-med-reha.com/）をご参照下さい。興味をお持ちの方は、実際に見ていただき、ご意見をいただければ幸いです。よろしくお願いします。

同みらい医療推進センター　伊藤倫之、三井利仁
和歌山県立医科大学リハビリテーション医学講座
田島文博

新専門医に聞く

平成24年度に新しくリハ専門医になられた先生に抱負を語っていただきました。専門領域がそれぞれ異なりますが、リハ医学にかける情熱は大きく、これからの近畿地方会を引っ張る新進気鋭の方々です。近畿地方会へのご支援を期待しております。

上口　正　兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリテーション科

このたび、リハビリテーション専門医に加えていただきました上口と申します。脳神経外科を長く専門としておりましたが、平成18年4月よりリハビリテーションの勉強をはじめました。大阪近郊のいくつかの回復期リハビリテーション病院、さらに東京、横浜で訓練をさせていただく機会が与えられました。そしてその数年間で、多くの先生方のお世話になりました。試験に合格できましたのは、その皆様のおかげです。お礼を申し上げます。現在もそして今後もリハビリテーション科の医師として働きます。自分に与えられた役割、自分に出来ることをよく考え、その上で皆様のお役に立ちたいと考えております。よろしくお願いいたします。

小金丸 聡子　兵庫医科大学リハビリテーション医学教室

このたび、専門医となりました兵庫医科大学リハビリテーション医学教室の小金丸と申します。これまで、リハビリ臨床を学ぶとともに、現在急速に発展しつつある神経科学分野の知見をリハビリテーション医学へ応用することを目標に研究を行って参りました。臨床現場ではまだ、マッサージ等を中心としたリハビリ医療が行われている所もあり、臨床・研究共に課題も多いのですが、今後とも、研鑽を重ねていきたいと存じます。御指導・御鞭撻の程宜しく御願い申し上げます。

齋藤　淳　名取病院 リハビリテーション科

今回の専門医試験合格につきまして、兵庫医大道免教授、関西リハビリテーション病院坂本先生、松本先生および様々なバックアップをいただいた医局の先生方に感謝いたします。

当初、リハビリテーション専門病院に入職し、今から考えますと温室のように教育していただきました。しかし、リハビリ医がいない病院（在籍している現病院ではありません）では、「リハビリ処方・指示は我々でもできますよ」と言われ、医師の束縛を受けずに自由を謳歌したいという人々も少なからずいます。リハビリ医としての価値を示し、そのような考えを持つ人々を黙らせる仕事が必要です。その観点では、リハビリ科の gold standard の教科書の適否を考える時期に来たようです。

酒井 良忠　神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学分野

この度、専門医を取得させていただきました、神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学分野の酒井良忠と申します。附属病院リハビリテーション部長を兼任しております。平成8年神戸大学卒業後、整形外科に入局し、骨折、骨粗鬆症と関節リウマチの治療に携わり、平成21年より姫路獨協大学医療保健学部にてコメディカルの教育に携わった後、本年4月より現職に就任しております。大学病院おけるリハビリテーションのニーズは増大する一方で、各科の協力を得ながら、早期のリハ開始とADL獲得を目指しております。診療、教育、研究と地域連携に微力ながら尽くしてまいりますので、ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

阪上 芳男　滋賀医科大学リハビリテーション科

私は平成9年滋賀医科大学を卒業後同大学第3内科（現内科学講座（糖尿病内分泌・腎臓・神経））に入局しました。神経内科医として長らく勤務しておりましたが、平成20年滋賀医科大学で回復期リハビリ病棟が立ち上げられたのを機にリハビリ科配属となり、現在に至ります。リハビリ医学とは何か、リハビリ科医の特異性とは何かに悩む毎日でしたが、専門医を目指し研鑽を重ねていくことでおぼろげながら答えが見えてきたように思います。滋賀県は神経内科医、リハビリ科医ともに少ない地域であり、この度認定を受けたことを新たなスタートと捉え、地域医療に役立つべく、より研鑽に励む所存です。御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

島田 憲二　兵庫医科大学ささやま医療センター リハビリテーション科

このたびリハビリテーション専門医に加えていただくことになりました島田憲二と申します。平成5年に京都府立医科大学を卒業後、京都府立医科大学の関連病院で脳神経外科医師として14年間勤務しました。その間に、リハビリテーションの必要性を実感したため平成19年から兵庫医科大学リハビリテーション部の道免教授にご指導いただきながら、回復期リハビリテーション病院でリハビリテーション科医師として勤務し、現在の病院に至っております。リハビリテーションは多職種のスタッフが力を合わせておこなうチーム医療と実感しております。そのチームの一員としてリハビリテーション科医師の役割を十分に果たすために今後も勉強していかなければならないと思っています。

下松 智哉　和歌山県立医大 リハビリテーション科

この度、リハビリテーション科専門医の認定をしていただきました下松 智哉（しもまつ　ともや）です。

リハビリ科で働き始めた当初は、全身管理にはじまり嚥下機能評価・装具作製・患者さんの退院後の生活環境調節等、携わる分野があまりに広範囲であり挫けそうになることもありました。しかし、細心の注意を払いながらリハビリ訓練を施行すれば、必ず訓練開始前より良くなることを実感するにつれ、この科に携われることにやりがいを感じるようになりました。

患者さんの喜びに貢献できるよう、さらに研鑽を積んでいきたい所存です。

野口 和子　大阪府立･急性期総合医療センター リハビリテーション科

この度専門医の認定をいただきました、野口和子と申します。平成12年より整形外科医として大阪市大病院、淀川キリスト教病院、旧・府立身障センター等で勤務してまいりましたが、2人の子供を出産後、平成19年より府立急性期総合医療センターのリハビリ科に勤務させていただいております。仕事も家庭もモチベーションの上がり下がりを繰り返していましたが（今もそうですが）、脊髄損傷患者さんの回復期リハビリに携わるようになり、陳腐な表現ですが、感動しました。御縁があって現職にいるからには・・・と、重い腰を上げて専門医取得を志した次第です。守備範囲が広すぎて自由度の高すぎるリハビリというジャンルで、自分に何ができるのかを考えるとため息が出ますが、とりあえずは目の前の患者さんに色々なことを教えていただきながら、逃げ腰な自分に鞭を入れ、もっと研鑽を積んで一人前のリハ医にならねばと思っています。今後とも御指導をよろしくお願い致します。

濱中 紀成　第二岡本総合病院

この度、リハビリテーション科専門医の認定をいただきました濱中紀成（はまなか　としなり）と申します。平成18年に滋賀医科大学を卒業し、第ニ岡本総合病院で初期研修を行い、その後同院リハビリテーション科にて勉強させていただいております。これまで幅広く様々な症例を経験させてくださった高橋守正先生に感謝申し上げます。

これからも諸先輩方の御指導をいただき、患者さんおよび御家族の方が心から満足していただけるような地域に根ざしたリハビリテーション医療を提供できる様に努力してまいりますので、御指導、御鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

坂野 元彦　和歌山県立医科大学リハビリテーション科

この度、専門医と認定して頂きました和歌山県立医科大学の坂野と申します。

現在は当科の地域医療再生プロジェクトの一環として、和歌山県那智勝浦町の公立病院に勤務しております。過疎化が進んだ当地域では医療崩壊が深刻な問題となっており、当科より医師を３名派遣し、地域住人の健康を維持するため、各科にとらわれない総合的な診療を行っております。地域に根ざした医療を行っていけるよう毎日がんばっております。

今後ともよろしくお願いいたします。

和田 陽介　東神戸病院 内科

私は、卒後６年間、内科医として勤務しておりました。市中病院の急性期医療や診療所の在宅診療に関わる中で、脳卒中後遺症や廃用症候群、摂食嚥下障害への対応の必要性を痛感し、リハビリテーション医を志しました。聖隷三方原病院、浜松市リハビリテーション病院で急性期、回復期、摂食嚥下リハを、兵庫県立総合リハビリテーションセンターで切断、脊髄損傷、脳卒中のリハを学びました。現在は市中病院で回復期リハ病棟の担当医を務めながら、急性期の摂食嚥下リハや研修医教育にも従事しています。今後は、プライマリケアの中で質の高いリハビリテーションを提供できるよう研鑽を重ねていきたいと考えています。

今後とも、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

特集

第５回アジア義肢装具学術大会開催に向けて

兵庫県立リハビリテーション中央病院
ロボットリハビリテーションセンター長　陳　隆明

アジア義肢装具学術大会（以下アジア大会）は、現在3年ごとに開催されているものであります。第1回アジア大会は澤村誠志先生を大会長として東京幕張で2000年に開催されました。以後、第2回は香港、第3回は韓国、第4回は香港において開催されました。例年アジア各国より多数の参加者があり、アジアの地において義肢装具の最新知見を得られる絶好の機会であると同時に、アジア各国の義肢装具関係者の交流の場としても貴重な機会を提供しております。第5回大会を日本（神戸）で開催する事により、学術的有利性のみならず、アジア諸国との連携をより強固とする上でも有益と考えています。経済的にも著しい発展を遂げているアジアを核とした義肢装具大会を継続していく事は、これまで欧米諸国を主導としてきた義肢装具の有り方に一石を投じるものであると考えます。

ぜひ多くの皆様に参加していただき、御支援を賜りたいと考えております。

学術大会の開催概要は以下のごとくです。詳細は大会HPをご覧ください。

第５回アジア義肢装具学術大会（APOSM2012）
Asian Prosthetic and Orthotic Scientific Meetings
大会テーマ：アジアの力を示そう（Powerful Asia）

会　期　2012年８月３日（金）～5日（日）
会　場　神戸国際会議場　TEL：078-302-5200
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1
大会長　陳　隆明（兵庫県立リハビリテーション中央病院）

主催団体　国際義肢装具協会日本支部（ISPO）／第５回アジア義肢装具学術大会組織委員会
共催団体　社団法人日本義肢協会／日本義肢装具学会／日本義肢装具士協会／兵庫県立リハビリテーション中央病院

主要プログラム
・特 別 講 演　山海 嘉之 先生（筑波大学大学院システム情報工学研究科）
王　喜太 先生（National Research Center for Rehabilitation Technical Aids）
Therdchai Jivacate 先生（Prostheses Foundation of H.R.H. The Princess Mother, Thailand）
Bengt Soderberg先生（ISPO, The International Society for Prosthetics and Orthotics 副会長）
・シンポジウム　筋電義手に関するシンポジウム(アジア諸国の筋電義手専門家による)
ロボットリハビリテーションに関するシンポジウム（日本国内の著名な工学研究者による）
・マニュファクチャラーズワークショップ
・一般演題（口演／ポスター）

大会ホームページ　http://www2.convention.co.jp/aposm2012/
お問合せ先　第５回アジア義肢装具学術大会 運営事務局（日本コンベンションサービス株式会社 神戸支店）
〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-9-1 神戸国際交流会館６階
TEL：078-303-1101　FAX：078-303-3760　E-mail：aposm2012@convention.co.jp

第33回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会開催にあたって

第33回リハ医学会近畿地方会学術集会 会長　中馬 孝容
滋賀県立成人病センターリハビリテーション科

平成24年9月15日（土曜日）に第33回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を滋賀県大津市にある大津市民会館にて開催させていただくことになりました。今回の生涯教育研修会では脳卒中、内部障害、骨関節疾患をテーマに3名の講師の先生方をお招きする予定です。鹿児島大学大学院医歯総合研究科リハビリテーション医学教授　川平　和美先生には「片麻痺への促通反復療法の理論と治療の実際，治療成績について－感覚入力による随意運動の誘発と反復による神経路の再建/強化－」について、京都府立医科大学大学院医学研究科人工臓器・心臓移植・再生医学講座教授　五條　理志先生には、「不全心の機能回復を目指す統合治療を支える心臓リハビリテーション」について、滋賀医科大学リハビリテーション科科長　今井　晋二先生には「肩関節疾患とリハビリテーション」についてご講演を賜ることになっております。いずれの講演におきましても、今後のリハ科診療・研究の中で役に立つお話を伺えると確信しております。また、一般演題も募集をしております。多数の先生方にお越しいただきまして、活発な議論ができることを切に願っております。皆様、よろしくお願いいたします。

第33回日本リハビリテーション医学会近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

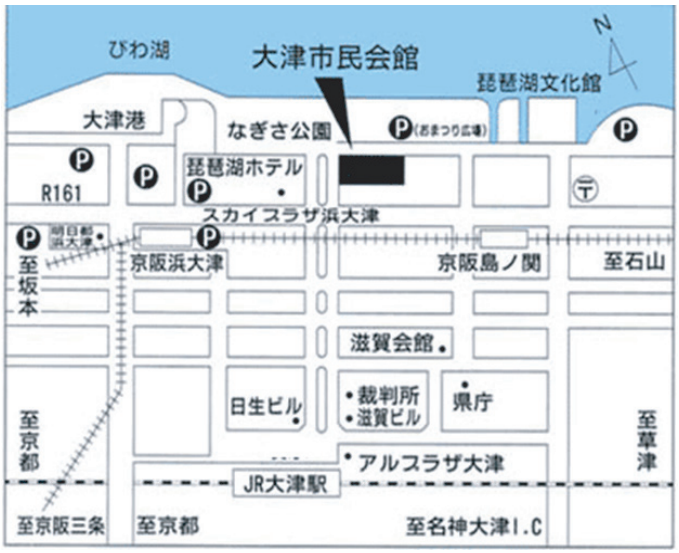
日時：2012年 9 月 15 日　12:30 ～ 18:00
会場：大津市民会館　滋賀県大津市島の関 14-1　Tel：077-525-1234
会長：中馬　孝容（滋賀県立成人病センターリハビリテーション科）

1．一般演題

演題申込要領：
E-mailにて滋賀県立成人病センターリハビリテーション科中馬孝容宛（chuuma@mdc.med.shiga-pref.jp）まで所定の様式にてお送りください。必ず受信確認の連絡を1週間以内にいたしますので、 万一受信確認の連絡がない場合には、下記まで電話連絡をお願いいたします。
（滋賀県立成人病センターリハビリテーション科 中馬 077-582-5031）

演題締切：2012 年 7 月 30 日（月）

認定単位：10単位予定
発表形式：MacPCの方は必ずご自身のPCをお持ちください。
Windowsの方はPCでもUSBメモリーでも受け付け可能です。



2．教育講演

1.「片麻痺への促通反復療法の理論と治療の実際，治療成績について
－感覚入力による随意運動の誘発と反復による神経路の再建/強化－」
鹿児島大学大学院医歯総合研究科リハビリテーション医学 教授　川平 和美 先生

2.「不全心の機能回復を目指す統合治療を支える心臓リハビリテーション」
京都府立医科大学大学院医学研究科人工臓器・心臓移植・再生医学講座 教授　五條 理志 先生

3.「肩関節疾患とリハビリテーション」　滋賀医科大学リハビリテーション科 科長　今井 晋二 先生

認定単位：30単位予定
参加費：2000円
受講費：3000円（30単位一括）
事前申込み：不要

お問い合わせ先
滋賀県立成人病センターリハビリテーション科　中馬 孝容
電話：077-582-5031
E-mail：chuuma@mdc.med.shiga-pref.jp

2012年度 近畿地方会研修会カレンダー

◆第33回学術集会および専門医･認定臨床医生涯教育研修会

日時：2012年9月15日(土)　12:30～18：00　　会場：大津市民会館
演題：1.『片麻痺への促通反復療法の理論と治療の実際，治療成績について
－感覚入力による随意運動の誘発と反復による神経路の再建/強化－』
鹿児島大学大学院医歯総合研究科リハビリテーション医学 教授 川平 和美 先生
2.『不全心の機能回復を目指す統合治療を支える心臓リハビリテーション』
京都府立医科大学大学院医学研究科人工臓器・心臓移植・再生医学講座 教授 五條 理志 先生
3.『肩関節疾患とリハビリテーション』
滋賀医科大学リハビリテーション科 科長　今井 晋二 先生
担当幹事：中馬 孝容(滋賀県立成人病センターリハビリテーションセンター)

◆第47回専門医･認定臨床医生涯教育研修会

日時：2012年10月13日(土)　13:30~17:00　　会場：大阪医科大学 臨床第一講堂
演題：1.『神経難病の医療連携：在宅療養をサポートする専門病院の役割』
天理よろづ相談所病院 神経内科部長　末長 敏彦 先生
2.『メタボリックドミノと骨粗鬆症：リハビリテーションの役割』
大阪医科大学総合医学講座リハビリテーション医学教室 講師 田中 一成 先生
3.『神経科学に基づいた脳卒中リハビリテーション』
畿央大学大学院健康科学研究科 教授　森岡 周 先生
担当幹事：鉄村 信治(奈良東病院リハビリテーション科)

◆日本リハ医学会近畿地方会 専門医･認定臨床医生涯教育研修会

日時：2012年11月中開催予定　　会場：兵庫県（予定）※当日は同じ会場で兵庫県リハ医会学術集会が開催される予定です。
担当幹事：陳 隆明(兵庫県立リハビリテーション中央病院)

◆日本リハ医学会近畿地方会 専門医･認定臨床医生涯教育研修会

日時：2012年11月25日(日)　　会場：京都府（予定）※当日は同じ会場で京都地域リハビリテーション研究会が開催されます。
担当幹事：武澤 信夫(京都府リハビリテーション支援センター)

◆第34回学術集会および専門医･認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年3月9日(土)　　会場：生田文化会館
担当幹事：逢坂 悟郎(兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター)

編集後記

厚生労働省が6月1日に公表した2010年の健康寿命の平均は、男性が70.42歳、女性が73.62歳で、平均寿命との差は、男性で9.22年、女性で12.77年もありました。都道府県別では近畿地方は総じて短く、特に女性は、滋賀47位、大阪45位、奈良40位、兵庫37位と少し気になるデータでした

今号では和歌山県立医科大学の田島文博先生に'げんき開発研究所'をご紹介していただきましたが、そのホームページを拝見するといきなり'健康で元気な生活の実現を私たちは目指します。'の赤文字が目に入りました。まさに我々はこれを目標に励んでいかねばと思った次第です。

ご寄稿頂きました先生方にはこの場をお借りして感謝申し上げます。まだまだ暑い日が続きますが、特に厳しい節電を求められている関電エリアの皆様におかれましては、どうか夏バテなどせぬよう、お身体ご自愛下さいませ。

奥村 元昭（東大寺福祉療育病院）